



# とかちの野生動物 エゾリス

Red squirrels



国立大学法人  
北海道国立大学機構



帯広畜産大学

野生生物保全管理技術養成事業





## エゾリスの衣食住



### エゾリスの衣

エゾリスは冬眠せず、一年を通して活動します。年に2回換毛し、4月下旬～6月下旬に赤褐色またはこげ茶色の夏毛に、9月下旬～11月上旬に灰色がかった褐色の冬毛に衣替えします。冬毛は長くて密度も高く保温に優れ、耳の先には長いふさ毛があります。ふさふさと毛のはえた約20cmの長い尾は、木の上などでのバランスを取るのに役立ちます。



夏毛のエゾリス



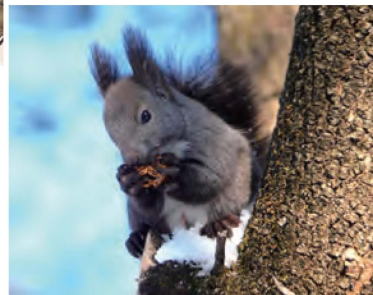
冬毛のエゾリス

### エゾリスの食

エゾリスの食物はマツ、トウヒ類やクルミの種子が中心です。帯広畜産大学構内の調査では、この3種類の種子が食物の80%以上を占めていました。その他にカシワ・ミズナラのドングリやカエデの種子、ヤナギ類やカエデ、フキの若い葉や芽、イチイ、ヤマグワなどの果実、キノコなど食物の90%以上が植物質ですが、昆虫や鳥の卵も食べます。動物の骨や落ちたシカの角などもかじります。



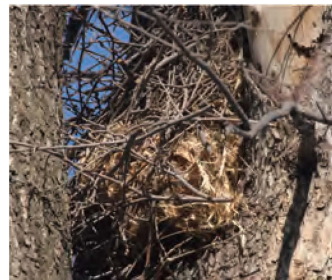
ゴヨウマツを食べるエゾリス



オニグルミを食べるエゾリス

### エゾリスの住

エゾリスの巣には一時的な休息などに使う木の枝を組んだ簡単なつくりの皿状巣 (nest) と子育てや越冬のために使う、保温のために内部に木の皮を細かく裂いたものや苔などを敷いた球状巣 (drey) があります。球状巣の多くは冬でも葉の落ちない常緑針葉樹の地上10m以上の高さに作られます。その他に、樹洞や巣箱などの人工物も巣として利用します。



球状巣 Drey



皿状巣 Nest



## エゾリスのくらし



### エゾリスの分布

エゾリスは日本では北海道にだけ分布しますが、イギリスからユーラシア北部、中国東北部、朝鮮半島に広く分布するユーラシアアカリスと呼ばれるキタリスの1亜種です。本州と四国には別の種類で日本固有種のニホンリスが分布しています。北海道では平地から標高の高い森林まで広く分布し、市街地の公園緑地や農耕地の林にも生息する身近な野生動物です。



ドングリを食べる夏毛のニホンリス



冬毛のニホンリス

### エゾリスの繁殖

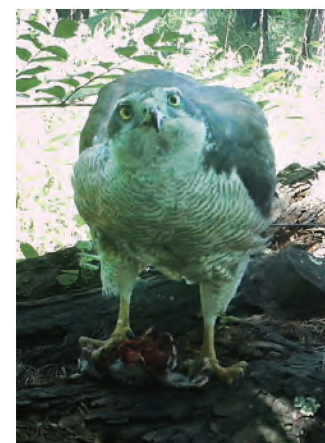
エゾリスは年1～2回繁殖し、一度の出産で1～7匹の仔を産みます(普通3、4匹)。交尾のための追いかは厳冬期の2月に始まり、妊娠期間は38～39日間、4月～7月にかけて出産します。仔の成長は早く、キタリスの例では生後3週間で毛が生え揃います。目が開くのは生後30日齢、45日齢には巣を出始め、8週間で乳離れをします。



巣から出始めた仔リスたち

### エゾリスの寿命と天敵

飼育された個体で最も長生きしたものは16年の記録がありますが、野生のエゾリスの寿命は平均して2、3年と考えられています。満1歳まで生き残る事の出来る仔は全体の4分の一で、3年以上生きる個体は少ないと考えられています。主な天敵は樹上ではクロテン、地上ではキタキツネ、市街地ではネコ、猛禽のクマタカ、オオタカ、フクロウなどです。



空の天敵 オオタカ



樹上の天敵 クロテン





## 人とエゾリス



### アイヌ民族とエゾリス

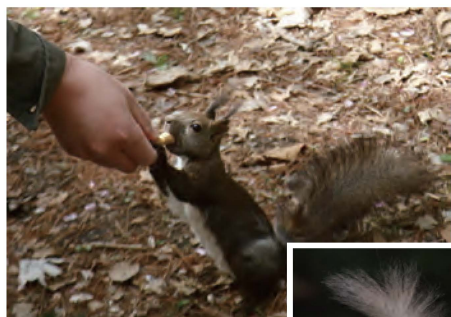
釧路や帯広のアイヌ民族はエゾリスをニオウとかニヨウ(木渡り)と呼んでいました。釧路地方ではエゾリスは木の上から狩人にいたずらするウエンベ(悪い者)とも呼ばれ、朝出会うと縁起が悪いと言って猟に出かけるのをやめたそうです。北海道内の他の地域(空知・千歳)でも猟の邪魔をする動物として嫌われていました。ところがアルビノの個体はレタル・ニオウ(白リス)と呼ばれ、獲物を授けてくれる守り神だったそうです。



レタル・ニオウ(左)とニオウ(右)

### エゾリスの現状

エゾリスは良質な毛皮を得るための狩猟獣としてピーク時の1934(昭和9)年には17万頭も捕獲されていたそうです。その後、毛皮の需要が減ると捕獲数は減り、1994年には狩猟獣から除外されて現在に至っています。現在のところ、絶滅の恐れのない普通種で、市街地の公園などでもおなじみの野生動物ですが、そこでは餌付けや都市化などで新たな人との関係上の問題が生じています。



人の手から餌をとるエゾリス



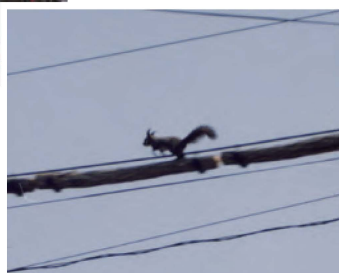
餌付けされたエゾリス

### ロードキル(交通事故)

人の生活圏に接して生息するエゾリスの死亡原因として最も重大なのが、おそらくロードキル(交通事故)です。帯広市とその周辺では2年間で94個体のロードキルで死んだリスの死体が集められた事があります。帯広市ではエゾリスのロードキルを減らすために、事故の起こった場所に注意喚起用の標識や事故の多発場所にエコ・ブリッジ(アニマル・パスウェイ)を設置しています。



「リスに注意」の標識



エコ・ブリッジを渡るエゾリス

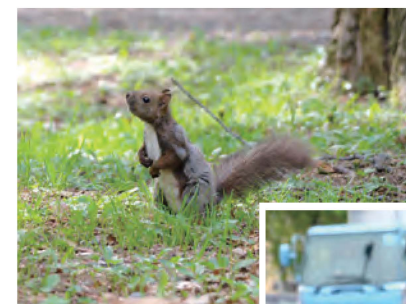


## 最近の研究から



### 帯広はリス研究の理想郷

帯広市の市街地や郊外に生息するエゾリスは、身近で安全に観察することが可能なため多くの研究者から注目されています。これまで北海道大学、東京大学、総合研究大学院大学、日本獣医生命科学大学、東洋大学そして地元の帯広畜産大学が市街地や郊外に暮らすエゾリスの基本的な生態の比較や都市化に関して、市街地の公園緑地における人と野生動物の在り方についてチームを作り共同で研究を行ない、多くの成果が国際的にも評価の高い学会誌・雑誌に掲載されています。



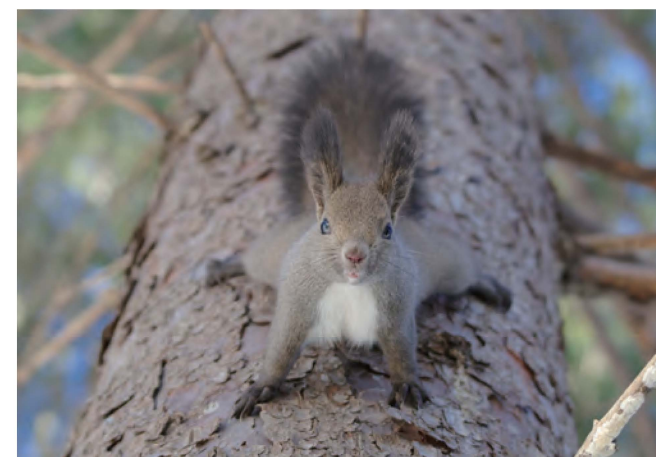
公園緑地のエゾリス



駐車場のちょっとした植え込みにエゾリス

### 街のリスと田舎のリス

街(市街地)の公園緑地のエゾリスは、田舎(郊外)に比べて人に対する警戒心が低くなっています。人が近づくと逃げ始める距離が、田舎のリスでは19mほどですが、街のリスでは約6mまで近づけます。また、田舎のエゾリスでは春と秋で近づける距離に差がありますが、街のエゾリスではその季節差が無くなります。街の公園で暮らすエゾリスと森の中で暮らしているエゾリスの性格を比べたところ、街のリスは大胆で攻撃的な性格であることがわかっています。



木の上で人を警戒するエゾリス

### 街のリスの食生活

エゾリスの主食はクルミやマツ類の種子ですが、それらは一年を通じて利用できるわけではありません。自然のリスは種子の乏しい冬から夏にかけては、貯食した種子のほか、冬芽や若葉などそれぞれの季節に利用可能な餌も利用します。しかし、街のリスは餌付けなどにより一年を通じて高い栄養価の餌を食べ続けることができます。これは繁殖や越冬などには有利ですが、バランスの取れた食生活とはいえないようです。



主食のオニグルミをくわえたエゾリス





野生生物保全管理技術養成事業  
<https://www.obihiro.ac.jp/biodiversity>



リーフレット作成協力、資料および写真・イラスト提供

浅利裕伸、内田健太、大熊 勲、おびひろ動物園、神谷小百合、坂本さや香、塩原 真  
鳶本 樹、高畑 優、十勝毎日新聞社、平井克亥、松本朋華、柳川 久(文責)、吉川徳江